おおさき日本語学校の留学生を対象に合同企業説明会を開催しました

8月18日・19日、おおさき日本語学校で、合同企業説明会を開催しました。

この説明会は、留学生の大崎地域での就職を支援し、地域企業とのつながりをつくることを目的に開校以来初めて開催したものです。おおさき日本語学校で学ぶ留学生58人のうち、卒業後に日本国内での就職を希望する26人が参加しました。

当日は、大崎地域の企業9社が参加し、各企業の担当者が事業の内容や仕事の特徴のほか、給与や福利厚生などの待遇について説明しました。留学生は、企業ごとの仕事内容や働く環境などを比較しながら、自分の希望に合った仕事について考える機会となりました。

また、企業の担当者に加え、おおさき日本語学校を卒業し、現在、参加企業で働いている先輩も説明会に参加しました。留学生は、実際に働く先輩から仕事の内容や職場での経験などを聞き、就職後の姿を具体的に思い描いていました。

市では、今後も大崎地域の企業と留学生との交流や就職につながる機会を設け、大崎地域での就職を促進していきます。



▲熱心に企業の説明を聞く留学生



▲参加企業で働く卒業生（右）に、就職について相談する留学生（左）

CITY TOPICS

まちの話題や出来事、ニュースをお届けします！

令和8年度宮城県・大崎市9・1総合防災訓練を実施しました

8月30日、松山地域で「令和8年度宮城県・大崎市9・1総合防災訓練」を実施しました。

9・1総合防災訓練は、大正12年の関東大震災を教訓に制定された「防災の日（9月1日）」および「防災週間（8月30日～9月5日）」の関連行事として毎年開催しています。

今年度は、平成6年度の旧鹿島台町以来32年ぶりに、大崎市が宮城県の総合防災訓練の会場地となり、約1000人が集まる大規模な訓練となりました。

当日は、緊急速報メール（エリアメール）訓練を皮切りに、会場となった松山中学校の校舎やグラウンドでは、高所救出訓練や土砂災害救出訓練、現地救護所設置運営訓練、火災防ぎょ訓練などが行われ、参加者は実際の災害を想定し、緊張感をもって取り組みました。

同じく会場となった松山B&G海洋センターでは、避難所開設運営訓練などが行われ、松山中学校の生徒が段ボールベッドを協力して組み立てるなど、将来の災害に備えた実践的な学びの場となりました。

市では、今後も大規模災害を見据えた防災・減災の取り組みを推進していきます。



▲車に閉じ込められた要救助者の救出訓練



▲段ボールベッドを組み立てる中学生

DISCOVER おらほのニュース発信します！ OSAKI

第15回 泥んこバレー in 小泉が開催されました

8月23日、古川地域小泉地区で「第15回 泥んこバレー in 小泉」が開催されました。

休耕田に水を張り、コートに見立てて行う泥んこバレーは、地域の交流を深めようと始まった毎年恒例のイベントです。市内外から集まった参加者は、足を取られる泥に苦戦しながらも、懸命にプレーしました。

試合が進むにつれて選手たちは泥まみれになり、会場には応援する人たちの歓声や笑い声が響きました。真剣勝負が繰り広げられ、泥んこになって楽しむ参加者の姿で、会場は大いに盛り上がりました。

熱戦を制し、見事優勝を果たしたのはチーム「荻埣（おぎぞね）」で、4連覇を達成しました。地域の絆を深める夏の風物詩として、今年も小泉地区に晴れやかな表情と一体感が広がりました。



▲白熱した決勝戦

第17回かんぼやま夏祭りが開催されました

8月13日、大貫地区公民館多目的広場で「第17回かんぼやま夏祭り」が開催されました。

この祭りは、地域行事への協力や、地域の課題解決に向けた活動に取り組んでいる大貫地区の青年組織「大貫衆十壱組（だいかんしゅうといちぐみ）」が中心となり、「これからの大貫をなんとかしたい」という思いで始まった夏祭りです。

当日は雨の中、多くの地域住民が会場を訪れ、よさこいや大声コンテスト、抽選会などの催しや出店を楽しみました。また、ステージでは出演者が力のこもったパフォーマンスを繰り広げ、会場には笑顔と歓声が広がりました。

17回目を迎えた夏祭りは、地域で力を合わせてつくる夏の恒例行事として、世代を超えたつながりを育むにぎやかな祭りになりました。



▲会場を盛り上げた「ラッツ&なぬスター」のステージイベント

『ささ結』稲刈り体験2026を開催しました

9月13日、古川地域敷玉地区で「『ささ結』稲刈り体験2026」を開催しました。

当日は、市内外から家族連れなどが参加し、黄金色の『ささ結』が実る田んぼで稲刈りを体験しました。参加者は、たわわに実った稲を一株ずつ刈り取りながら、普段、何気なく食べている米がどのように育てられ、食卓に届くのかを学びました。慣れない作業に苦戦する場面もありましたが、参加者は笑顔で稲刈りを楽しみ、収穫の喜びを分かち合いました。

稲刈り体験の後には、大崎ジビエのイノシシ肉を使ったカレーや地元野菜と共に『ささ結』を味わいながら、参加者同士で交流を深めました。米づくりに携わる農家の苦労や思いを感じ、食べ物を大切にする気持ちを育むひとときになりました。



▲小さな手で鎌を握り、稲刈りに挑戦